

## 第 2 回益城町「平成 28 年熊本地震記憶の継承」検討・推進委員会 合同専門部会における検討内容

震災記念公園専門部会で実施した「各校区住民との座談会（1 巡目）」の内容を全員で確認。「記憶の継承」全体としての議論となっていることを再確認した。

- 「各校区住民との座談会（以下、座談会）」では、「場」としての震災記念公園についてだけでなく、「コンテンツ」としての震災遺構の活用や、「やり方（伝え方）」としての防災教育の活動（例：語り部活動、震災遺構の現地見学等）に関する意見も多く出ていたことを確認した。
- よって、2 巡目の座談会では、「『記憶の継承』全体としての議論」と明確に提示することを確認し、特に、震災遺構の活用、防災教育の活動の観点から、座談会の中でさらに取り扱いたい内容を抽出・整理した。

さらに、校区住民にとっては、「平成 28 年熊本地震の記憶」と「校区の記憶（地域の歴史や文化、地理的特徴など）」とは切り離せないもの、という点についても再確認した。

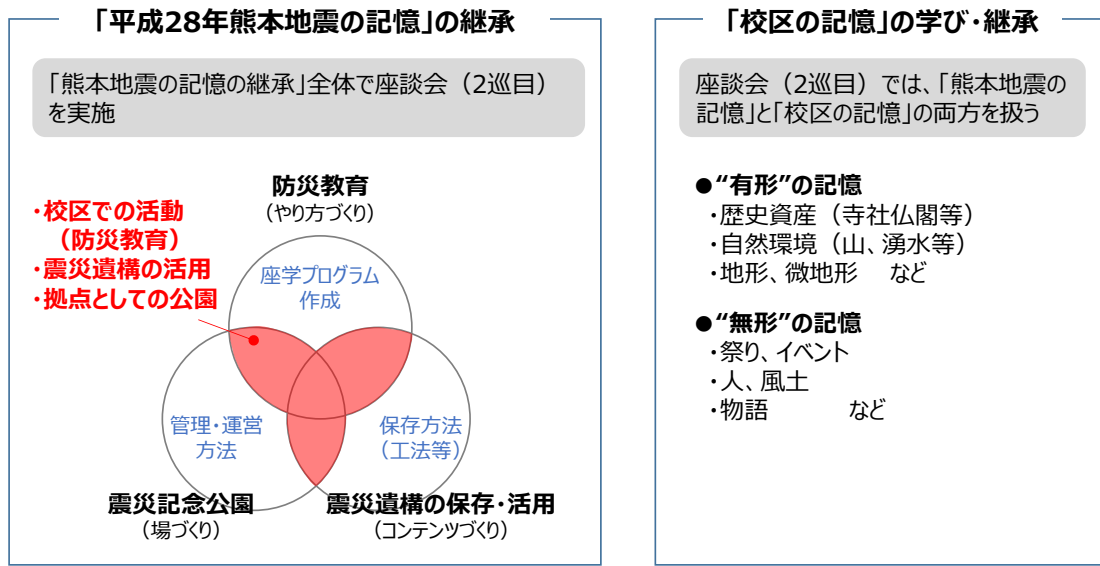
- 座談会では、例えば、寺社仏閣や地域のお祭り、偉人、自然環境（湧水、山等）などの、平成 28 年熊本地震とは直接関係しない「校区の記憶」に関する話題についても、「平成 28 年熊本地震の記憶」と組み合わせて語られていたことを確認した。
- よって、2 巡目の座談会は、「記憶の継承」の話に加えて、「校区の記憶」の話もさらに積極的に組み合わせながら行っていくことも再確認した。

「平成 28 年熊本地震の記憶の継承」に関する取組をきっかけとして、校区住民が自ら「校区の記憶」まで含めて学び、校区のまちづくりに活用して欲しい、という想いをこめ、校区ごとのイメージマップに描かれる空間や活動の総体を、「ふるさとキャンパス」と称することとした。（※次頁参照）

- 1 巡目の座談会を経て、震災記念公園専門部会では「イメージマップ（次頁参照）」を作成しており、2 巡目の座談会にもそれを提示する予定であったが、そこに含まれる空間や活動の総体（「平成 28 年熊本地震の記憶の継承」+「校区の記憶の学び・継承」）にも名称があった方が、より伝わりやすく、地域でも活用しやすいのではないかと、この観点から、「ふるさとキャンパス（マップ）」と称することとした。
- 校区ごとの「ふるさとキャンパス」（例：福田キャンパス、木山キャンパス）をまとめて、益城町全体の「益城町ふるさとキャンパス」と考えることとした。

以上

## 「平成 28 年熊本地震記憶の継承」と「校区の記憶」



校区ごとの「ふるさとキャンパス」として整理の上、  
2巡目の座談会を実施

### イメージマップ（例） ※資料 6-2 にて詳細を説明

